

特
1708
8



十六

素性法師そせいほふしなり

十五

中務なかつむ之の捕とら麻あ乃のなり

十四

実方まことかた中なかつ乃のなり

十三

侍し后ご大だい納なつ之の成なり通と鞠ま乃のなり

十二

島しま乃の院いん淨じやう院いん乃のなり

十一

清きよ乃の美み方かた乃のなり

十

忠ちゆう乃の乃のなり

九

伊い乃の乃のなり

持士志軒るるる。

躬恒するるる。

花山院するるる。

義孝道歌のるる。

儒正遍照するるる。

經心歌るるる。

竹書儒心集乃若屋乃方代のるる。

惠心儒教御小違花を生まじくるるる。

紀伊形を威がるるる。

西行撰集抄卷第十八

一 さがあくと管待と作るるる。

昔湯海乃又宮め山のちの井川乃乃介るるる。

あともゆくとせおとと海とと。さかあくと。同。

あなゆとあはくるとるるる。あなゆとあはくるとるるる。

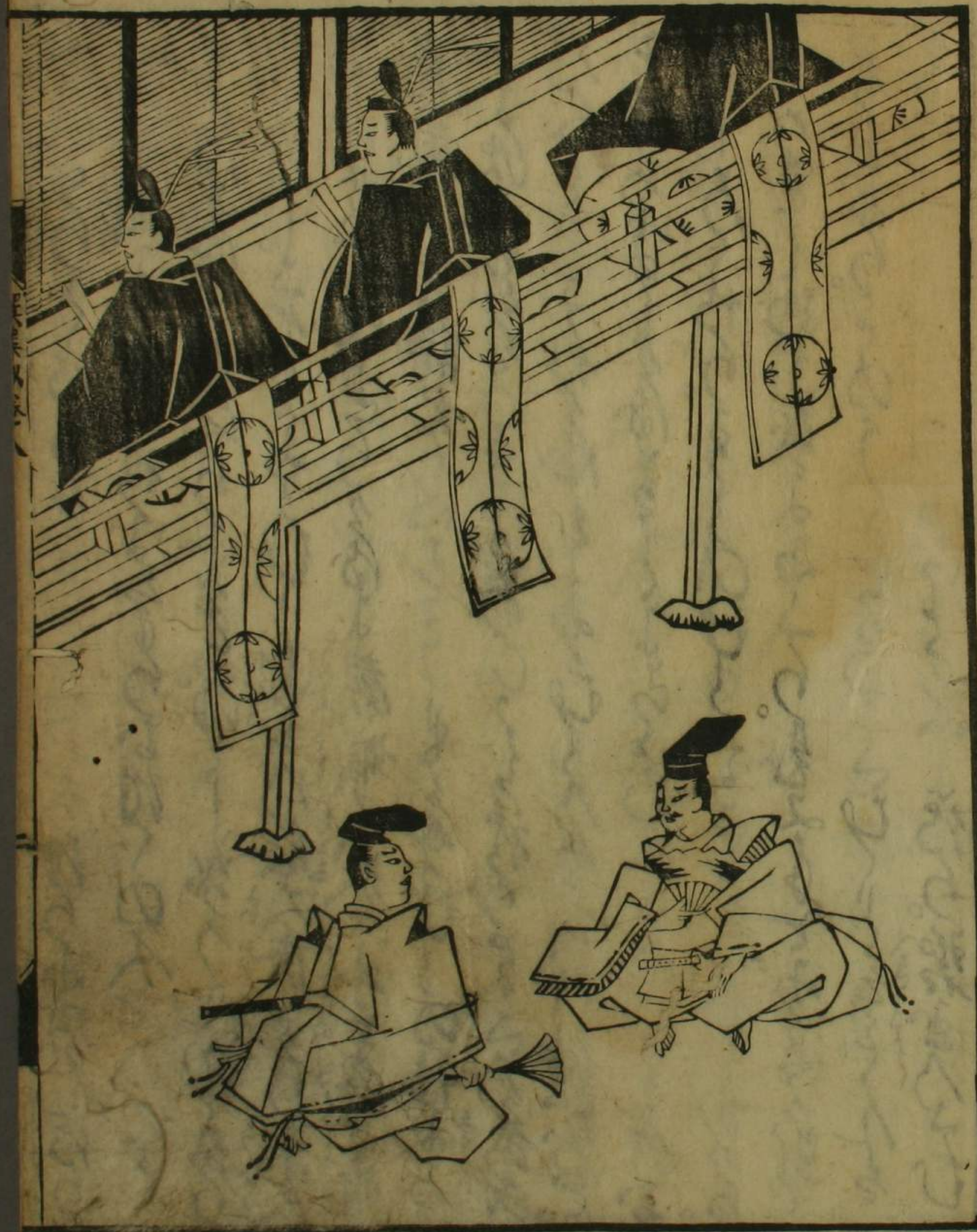
あなゆとあはくるとるるる。あなゆとあはくるとるるる。

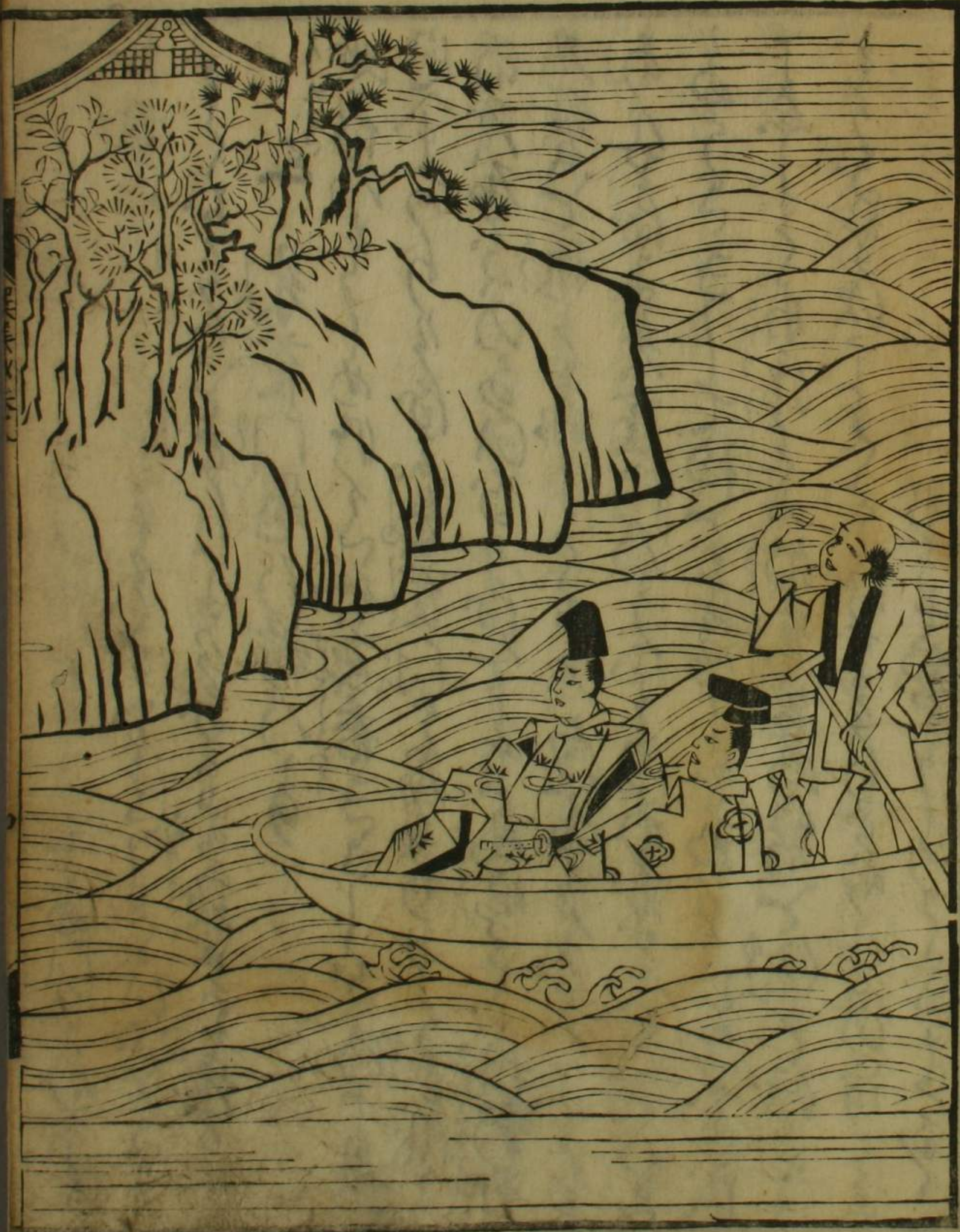
あなゆとあはくるとるるる。あなゆとあはくるとるるる。

あなゆとあはくるとるるる。あなゆとあはくるとるるる。

あなゆとあはくるとるるる。あなゆとあはくるとるるる。

いそぎ嫌人奉り。碧玉宮章雅院表。





見しにさしりて減よわとてしりてあはれうとて
 於良香とらかうの子世男せおを眼まなこつおとて畫ぬとて
 めくけくして詠よみたりつらふよ。神かみ後ごなびぬとて
 ゆりあうらひく。神かみおほふらふよとてあはれ
 あく。十二じふに國くに縁えんをわらうらよ。じあいらふの
 乃耳のみみよあごやうおのへたりらふ。わくもあ
 たり。彼かよのあはれは。あはれを。よ
 男おとこをまあこのまへよ。はるかにと。あはれ
 とれよ。十二じふに國くに縁えんのあはれ。あはれ
 あり。くおのりたりめ。そのいひ。わ
 市いち々々と。うら。こ。あ。相あい公こうよ。い。つ。り。於良香とらかう
 の神かみ乃感歎のくわんたんよ。あ。の。り。る。能のり藝ぎを。ら。あ。う。て。い。て
 字じねく。と。たり。こ。こ。も。於良香とらかうと。十二じふに國くに縁えんを。わ

裏よびあしつらふは待よ。口よ。しめひとあへく
はせらふはくおむむくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

三 朱雀門魁乃將乃の

延長乃ちくめはく。初良番きくくくくくくくくくくくく
内かすのりりなはよ。朱雀門魁乃將乃の。あへくくくくく
あへくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
乃将と極と極くくくくくくくくくくくくくくくくくく
あへくくくく。朱雀門乃くくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

まよあせす。新柳とらふくくくくくくくくくくくく
のはくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
まよ。くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ひくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく





四 清眞云名倉の事

昔延喜のころの流々なる清眞云仲知云
ておとす海一と云と。有たおみあり
をんだけららる海一。清眞云朗詠子六
祭三祭とあり

清山云暗室の字を之と家類也浪深茶に属之矣

社

どうんそくたおと辭一や拾つりやと。あとおしん
ゆりてたお云よあつてゆりて。一位とくけけり
たり。是もあまのなるとうあつてとくたおと辭一
やとせぬあつて海一とくけけりて月とはか
こしきと海一

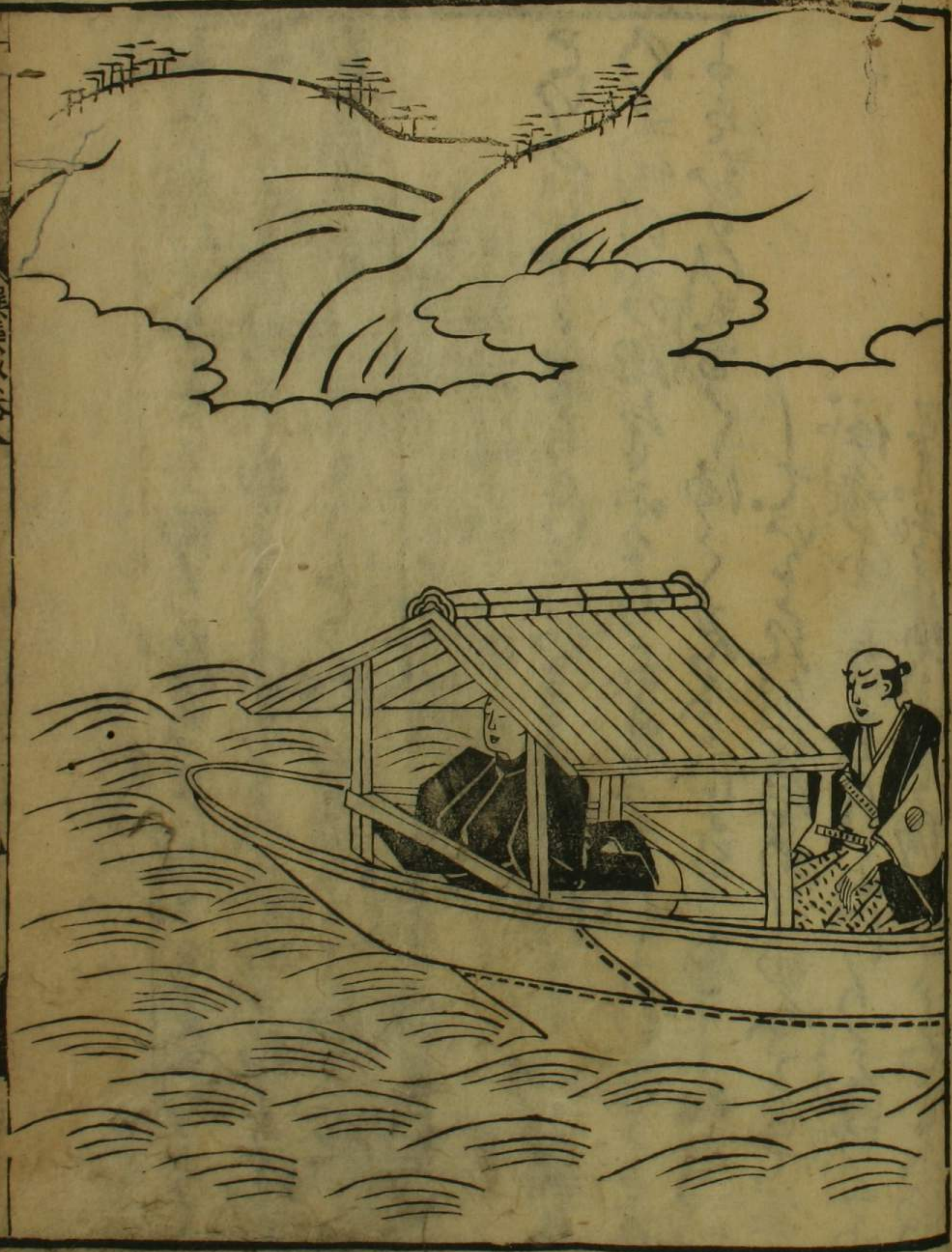
五 野相云信乃のり

じつ一信乃の法と云。本體の相と云。がわのりて。よ
乃國へあつたも信乃のり。ふ万里未何年月一はあ
中是長襟と云。はくせり。カうと。め。つ。流
罪と云。わ。め。お。り。め。つ。流。論言と云。くよ
く。の。信。乃。の。法。と。云。は。く。せ。り。カ。う。と。め。つ。流
さ。は。信。乃。の。法。と。云。は。く。せ。り。カ。う。と。め。つ。流
名。乃。ふ。の。法。と。云。は。く。せ。り。カ。う。と。め。つ。流
あ。う。の。法。と。云。は。く。せ。り。カ。う。と。め。つ。流
一。生。め。の。法。と。云。は。く。せ。り。カ。う。と。め。つ。流
て。の。法。と。云。は。く。せ。り。カ。う。と。め。つ。流
の。法。と。云。は。く。せ。り。カ。う。と。め。つ。流
カ。う。と。め。つ。流

和国の原八十海をめぐりてはくせり

くよはははけのりはくせり

さ。の。法。と。云。は。く。せ。り。カ。う。と。め。つ。流
ま。の。法。と。云。は。く。せ。り。カ。う。と。め。つ。流
あ。の。法。と。云。は。く。せ。り。カ。う。と。め。つ。流
あ。の。法。と。云。は。く。せ。り。カ。う。と。め。つ。流



一六 江相公侍のり

びうし大に相公ひきまらり乃にけお成くわいしはむる
よ志あふくふよとてめりたりをいふ。洞室ありく
あふりくぬる。あよしのあふりあふりゆらんと
あひひらきとてくまひとてあふりゆらんと

見しとてあふりゆらんとあふりゆらんと
前達程を述べたに於て厚く書雲後云致遠

とりの侍とてまのり。所ひひらきとてあふりゆらんと。相公

乃文詞の秀麗なふらり。あふりゆらんとあふりゆらんと
もたあひひらきとてあふりゆらんと。あふりゆらんと
御門はのりあふりゆらんと。あふりゆらんとあふりゆらんと
あふりゆらんとあふりゆらんと。あふりゆらんとあふりゆらんと
あふりゆらんとあふりゆらんと。あふりゆらんとあふりゆらんと



甲子の如く相をよほし相りて一と欲をりたる身
おとりのまめんやとらそとあさひ侍のりふとお
かき表すおあんゆり。さうの逢よおとむく思
ひとんざんのゆふ魚の雲おと霧な舎とさうふ
ゆせしんりのゆととおやしてゆり

七 白樂天のゆり

ひー唐國の白ふてまよまのよあなとれたる
およりく。昭陽のゆのりりようのり後ゆりを
あ

官達自此心長お世事ト後今に不言とほく

里紗ひゆりなれを海終うさうあまうさうひ
くあまうとゆりして。あありと急しとくあを遊

世のよあゆりゆりゆりゆりゆり。浪よ入ゆりのゆりり
ゆりゆりあまゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
てうあひゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
らあゆりゆりゆり唐國ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
いゆりゆりゆり





八 小野 英 祐 乃 事

延元乃... の信州小野の大長...
 ...の國入あざさ...
 ...の...
 ...の...
 ...の...

家書遺書... 孫源...
 思量... 何歳...

...の...
 ...の...
 ...の...
 ...の...

乃美命り。大長をいほまのこ。みらあ〜んとあて
むふなり。ほのふまをひめく。いふ身をいぬり
てい〜〜〜

新羅家三月月夜 新羅家三月月夜。西百子行。万更皆出爰。
内々作彼業

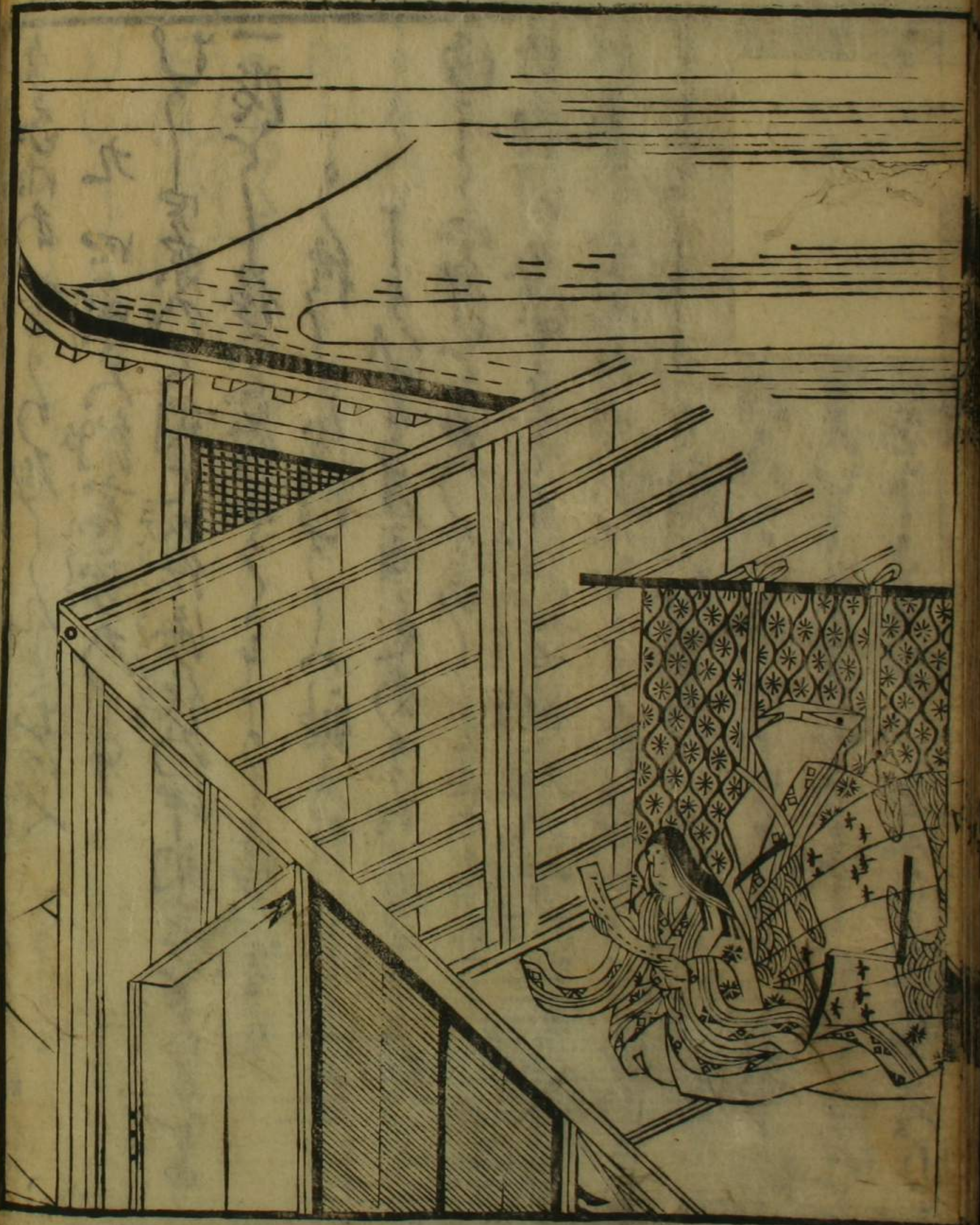
と云ゆをある天神のい〜〜〜。無わの事れ
と〜〜〜。あ〜〜〜。あ〜〜〜。あ〜〜〜。
あ〜〜〜。あ〜〜〜。あ〜〜〜。あ〜〜〜。
あ〜〜〜。あ〜〜〜。あ〜〜〜。あ〜〜〜。
あ〜〜〜。あ〜〜〜。あ〜〜〜。あ〜〜〜。
あ〜〜〜。あ〜〜〜。あ〜〜〜。あ〜〜〜。
あ〜〜〜。あ〜〜〜。あ〜〜〜。あ〜〜〜。
あ〜〜〜。あ〜〜〜。あ〜〜〜。あ〜〜〜。
あ〜〜〜。あ〜〜〜。あ〜〜〜。あ〜〜〜。
あ〜〜〜。あ〜〜〜。あ〜〜〜。あ〜〜〜。

九 四葉大納言あ乃り

ひ〜〜〜。四葉の大納言。あ乃り。あ乃り。あ乃り。
一階と〜〜〜。あ乃り。あ乃り。あ乃り。

う〜〜〜。あ乃り。あ乃り。あ乃り。
あ乃り。あ乃り。あ乃り。あ乃り。

あ乃り。あ乃り。あ乃り。あ乃り。あ乃り。
あ乃り。あ乃り。あ乃り。あ乃り。あ乃り。
あ乃り。あ乃り。あ乃り。あ乃り。あ乃り。
あ乃り。あ乃り。あ乃り。あ乃り。あ乃り。
あ乃り。あ乃り。あ乃り。あ乃り。あ乃り。
あ乃り。あ乃り。あ乃り。あ乃り。あ乃り。
あ乃り。あ乃り。あ乃り。あ乃り。あ乃り。
あ乃り。あ乃り。あ乃り。あ乃り。あ乃り。
あ乃り。あ乃り。あ乃り。あ乃り。あ乃り。
あ乃り。あ乃り。あ乃り。あ乃り。あ乃り。



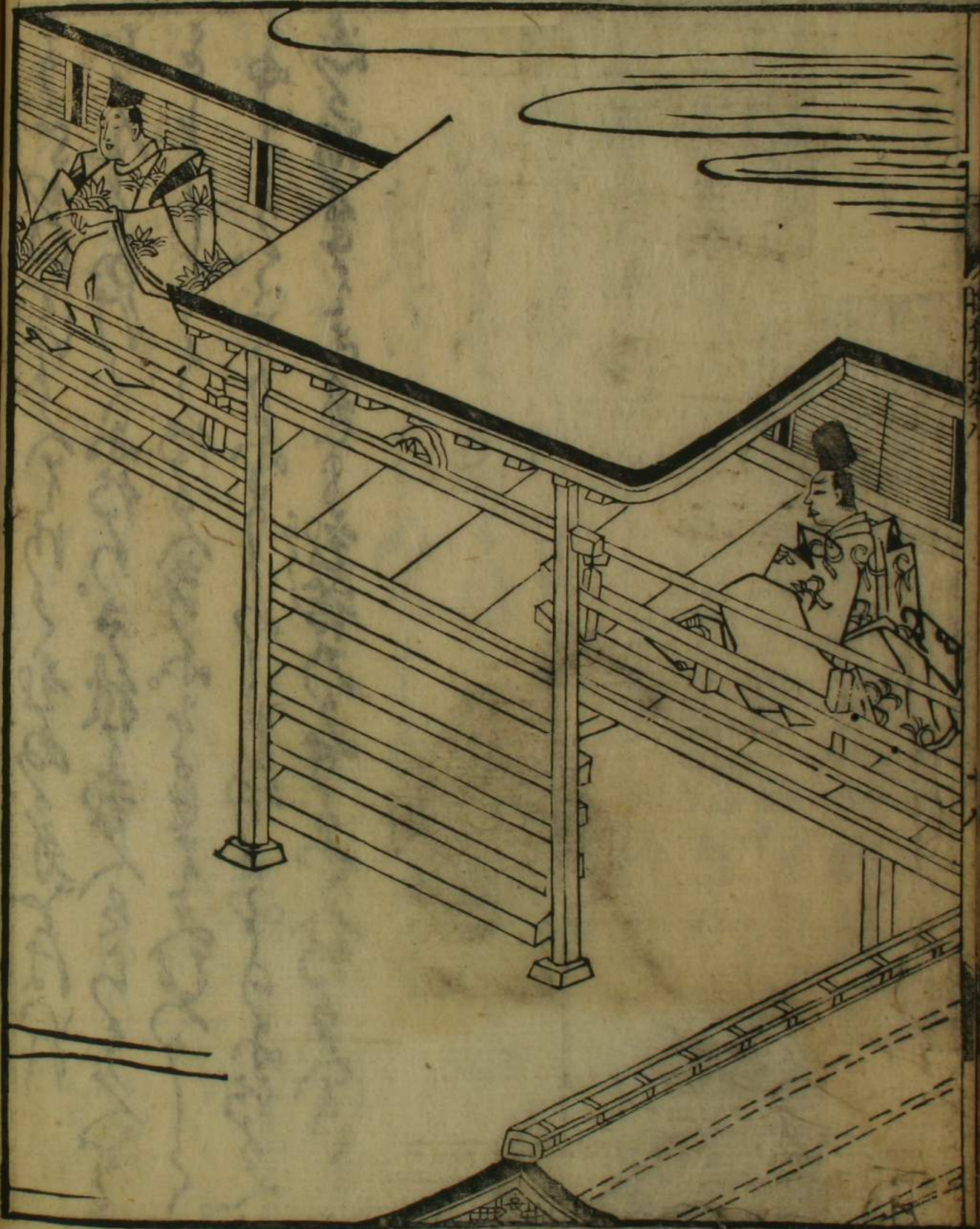
十一 宮内中納言みやうちのなごんのり

ひり為頼の仲納言なごん曰いまらり新あらたひく。まらり
ひりまらりらるるのちまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらり

まらりまらりまらりまらりまらりまらり

まらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらり

まらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらり

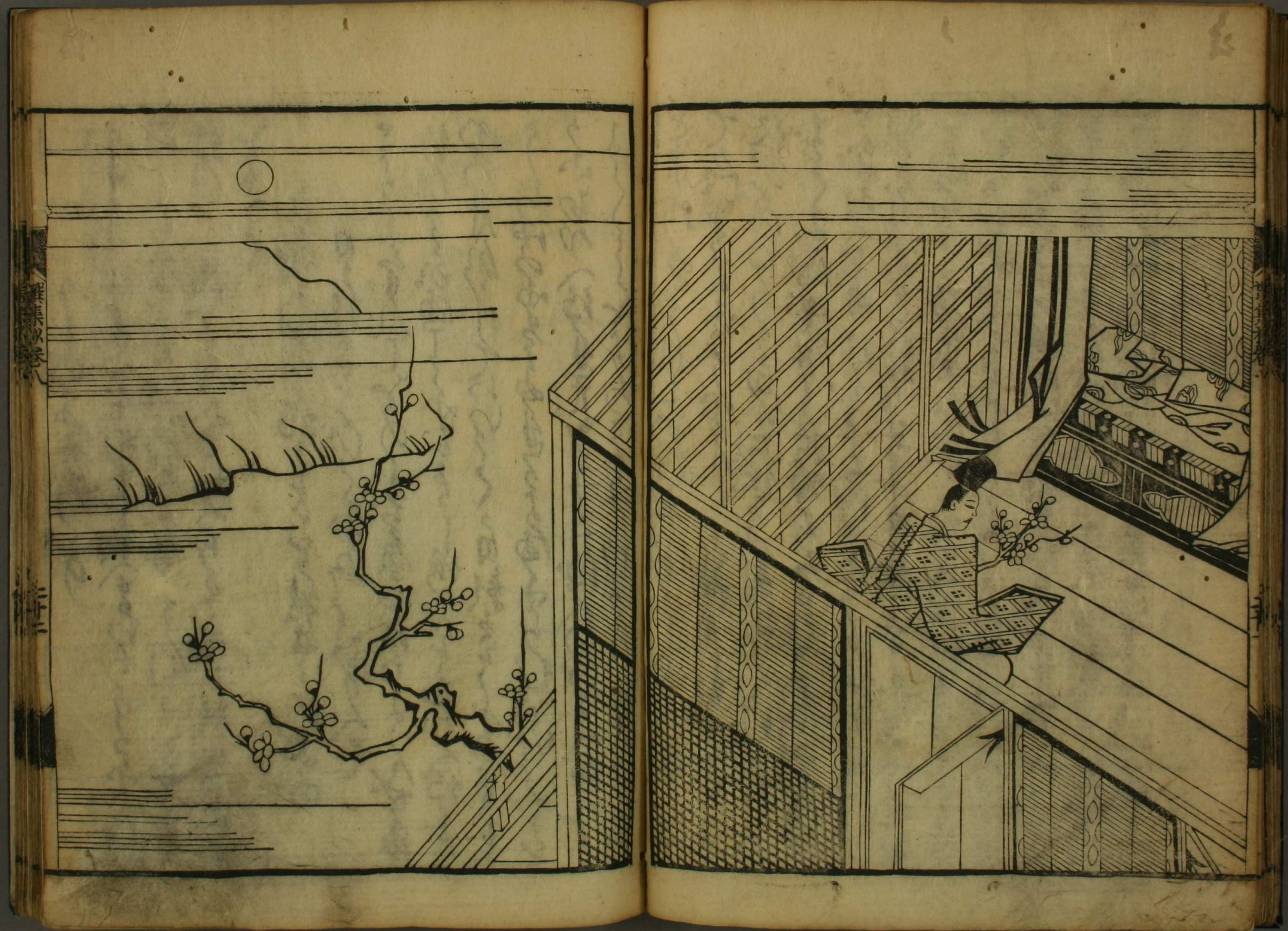


ひらきまの宰相の侍らるる中をみる。九月十三日
あけふふたつに新ひな祭り。九月十三日
月の前乃速懐けらるる。八月廿二日
乃侍りし。

あけふふたつに新ひな祭り。八月廿二日

こころのあまのついでに新ひな祭り。八月廿二日
お沙蔵の侍らるる。宰相の侍らるる。八月廿二日
あけふふたつに新ひな祭り。八月廿二日
あけふふたつに新ひな祭り。八月廿二日
あけふふたつに新ひな祭り。八月廿二日
あけふふたつに新ひな祭り。八月廿二日
あけふふたつに新ひな祭り。八月廿二日
あけふふたつに新ひな祭り。八月廿二日
あけふふたつに新ひな祭り。八月廿二日
あけふふたつに新ひな祭り。八月廿二日





大仲長能宣小燈のこぼるるまはつりらるるふ
 乃うりやんたよ月影のさくらにさくらとあふ
 紗ひく。酒とこころあはらるる能宣日行
 とあふく

ちやうどおのちとてとてはなつてさうの

日ころさうとてさうとてさうとて

さうとてさうとてさうとてさうとてさうとて
 紗ひく。酒とこころあはらるる能宣日行
 のの月影とてさうとてさうとてさうとて
 ちやうどおのちとてとてはなつてさうの
 うふあつたはなつたはなつたはなつたはなつた
 さうとてさうとてさうとてさうとてさうとて



こよはちり。さ終れし道とて。ちかむる人を
やうののよとて。お鼻とて。終りて

十五 素性法師のうらみ

ひら素性法師のうらみ。あまの僧のり九重
乃り大原とて。あまの僧のり九重
よ元亮とて。あまの僧のり九重
こよはちり。終れし道とて。ちかむる人を
せし終りて。あまの僧のり九重
くあまの僧のり九重。あまの僧のり九重
あはちり。終りて

あまの僧のり九重。あまの僧のり九重
あまの僧のり九重。あまの僧のり九重
あまの僧のり九重。あまの僧のり九重

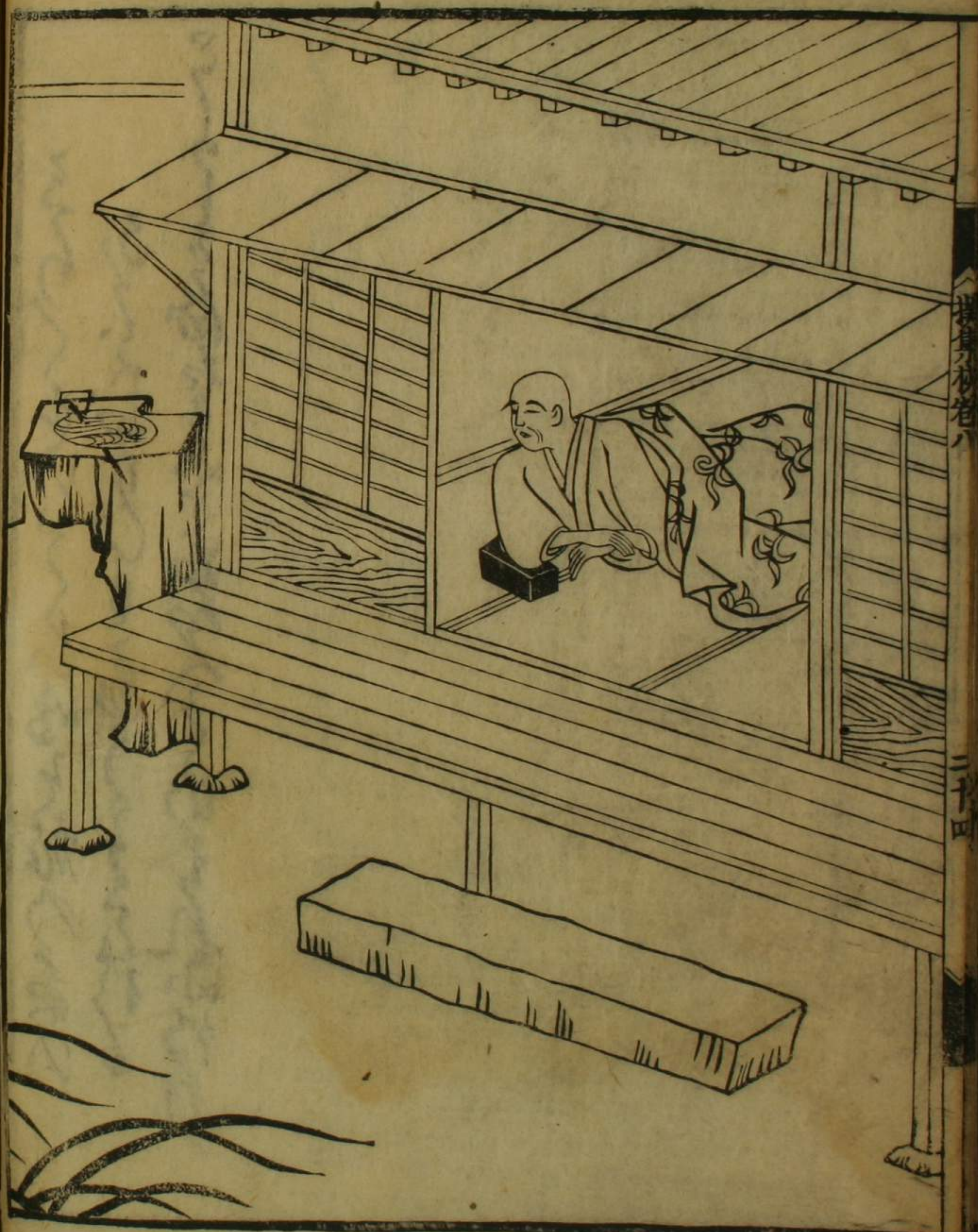
あまの僧のり九重。あまの僧のり九重
あまの僧のり九重。あまの僧のり九重

あまの僧のり九重。あまの僧のり九重



無名氏

三十五



無名氏

三十六

十六

申物元彌屋のあはれ

ひり九条屋あはれとていふ人あはれとて。七ヶ月あはれを合
のちりりるふ申物とていふ人あはれとて。申物のあはれ

夫乃河うらなとていふ人あはれとて。申物のあはれ

あはれとていふ人あはれとて。申物のあはれ

とらふあはれとていふ人あはれとて。申物のあはれ

さくえ猶のあはれとていふ人あはれとて。申物のあはれ

と見ゆあはれとていふ人あはれとて。申物のあはれ

夫乃河のあはれとていふ人あはれとて。申物のあはれ

あはれとていふ人あはれとて。申物のあはれ

あはれとていふ人あはれとて。申物のあはれ

とらふあはれとていふ人あはれとて。申物のあはれ

さくえ猶のあはれとていふ人あはれとて。申物のあはれ



申物元彌屋

あはれ

異事



此物をいつかと物とて〜 月とて成るる
 形にて鞠とていつかと物とて〜 月とて成るる
 け物とていつか人を鞠とていつか〜 月とて成るる
 里々々東世々々はあり〜 月とて成るる
 何とていつか物とていつか〜 月とて成るる
 里々々東世々々はあり〜 月とて成るる
 鳥取院の物とていつか〜 月とて成るる
 のまじりたる鞠とていつか〜 月とて成るる
 だに物とていつか〜 月とて成るる
 うらうらふ〜 月とて成るる
 らぬ〜 月とて成るる
 る〜 月とて成るる
 くらふ〜 月とて成るる



牙^のハ^ハ弦^ハ声^ハ最^ハ掩^ハ抑^ハ悠^ハ水^ハ凍^ハ咽^ハ流^ハ不^ハ得^ハ
 とらふふてのゆと押入〜くあまなま〜くま
 河^の水^ハ流^ハる^ハとら^ハゆ^ハつ^ハら^ハ〜^ハあ^ハま^ハな^ハま^ハ〜^ハあ^ハま^ハな^ハま^ハ
 有^ハ流^ハ乃^ハ流^ハ〜^ハあ^ハま^ハな^ハま^ハ〜^ハあ^ハま^ハな^ハま^ハ
 び〜^ハあ^ハま^ハな^ハま^ハ〜^ハあ^ハま^ハな^ハま^ハ
 ら^ハゆ^ハつ^ハら^ハ〜^ハあ^ハま^ハな^ハま^ハ〜^ハあ^ハま^ハな^ハま^ハ
 野^の路^ハ〜^ハあ^ハま^ハな^ハま^ハ〜^ハあ^ハま^ハな^ハま^ハ
 々^ハ〜^ハあ^ハま^ハな^ハま^ハ〜^ハあ^ハま^ハな^ハま^ハ
 小^ハ〜^ハあ^ハま^ハな^ハま^ハ〜^ハあ^ハま^ハな^ハま^ハ
 の^ハ〜^ハあ^ハま^ハな^ハま^ハ〜^ハあ^ハま^ハな^ハま^ハ
 ありま〜^ハあ^ハま^ハな^ハま^ハ〜^ハあ^ハま^ハな^ハま^ハ



とうちかへはくしん。まことの明神あへんていせ
ひくせをうしん。あや

二十 徳身道方うしん

待賢門院うしん。後継ひくしの又まじはる
道方とりの徳身うしん。の御取へありありうしん。
人あひひくしの又まじはる。元亮うしん。徳身うしん。
花まじりうしん。徳身うしん。徳身うしん。徳身うしん。
まじりうしん。

あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。

花うしん。あうかろしん。あうかろしん。

あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。
あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。
あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。
あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。

あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。
あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。
あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。
あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。

あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。
あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。
あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。
あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。あうかろしん。



ありてのさうなる君はなかりけ

らうのさうなりたるものありてのさうなるもの

廿三 伊勢うまうらひ

ひ伊勢うまうらひうまうらひうまうらひうまうらひ

うまうらひうまうらひうまうらひうまうらひ

うまうらひうまうらひうまうらひうまうらひ

うまうらひうまうらひうまうらひうまうらひ

あんとらう

あんとらうあんとらうあんとらうあんとらう

あんとらうあんとらうあんとらうあんとらう

あんとらうあんとらうあんとらうあんとらう

あんとらうあんとらうあんとらうあんとらう

あんとらうあんとらうあんとらうあんとらう

あんとらうあんとらうあんとらうあんとらう

あんとらうあんとらうあんとらうあんとらう

あんとらうあんとらうあんとらうあんとらう

あんとらうあんとらうあんとらうあんとらう

あんとらうあんとらうあんとらうあんとらう

あんとらうあんとらうあんとらうあんとらう

あんとらうあんとらうあんとらうあんとらう

あんとらうあんとらうあんとらうあんとらう

あんとらうあんとらうあんとらうあんとらう

あんとらうあんとらうあんとらうあんとらう

あんとらうあんとらうあんとらうあんとらう

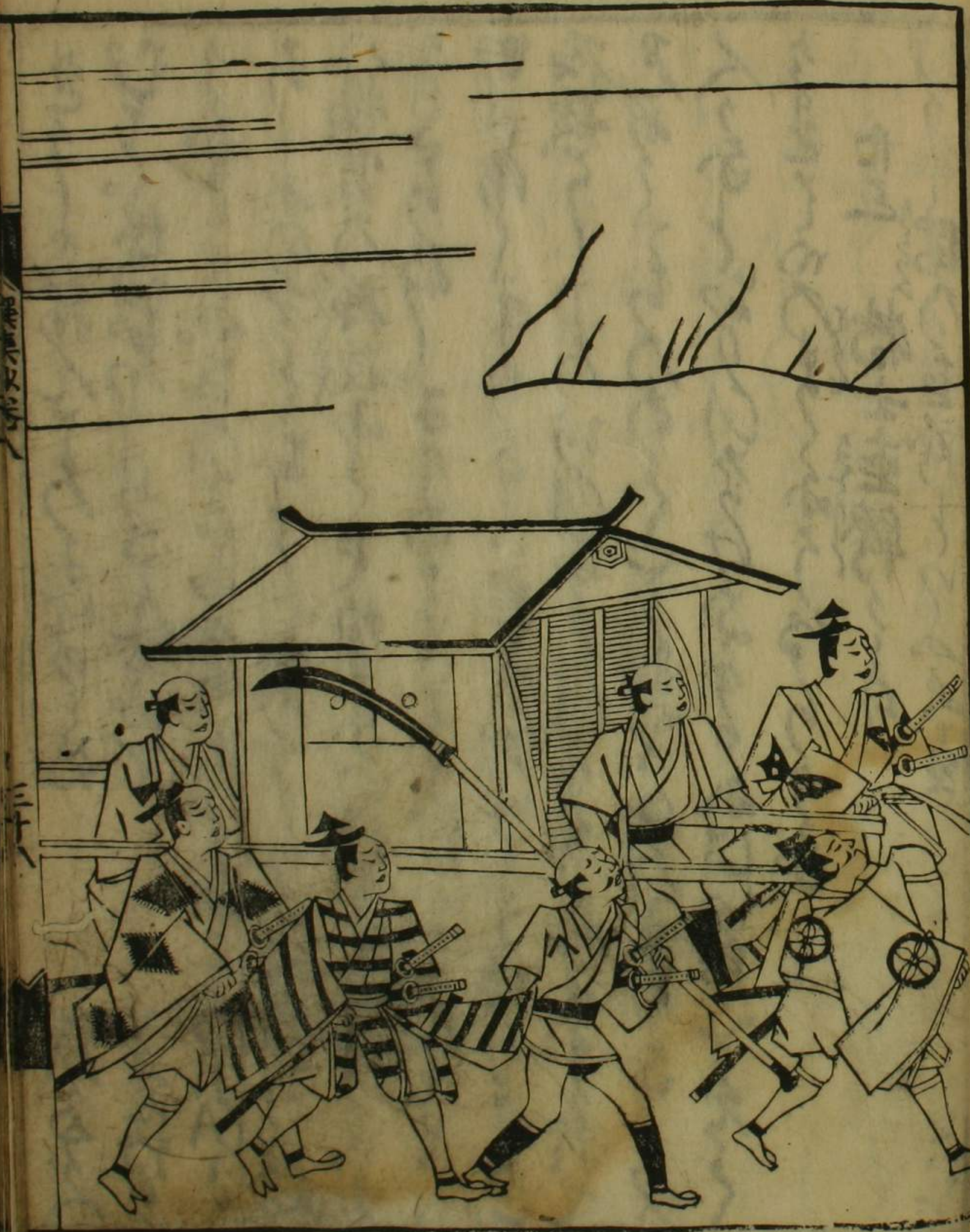
あんとらうあんとらうあんとらうあんとらう

あんとらうあんとらうあんとらうあんとらう

あんとらうあんとらうあんとらうあんとらう

あんとらうあんとらうあんとらうあんとらう

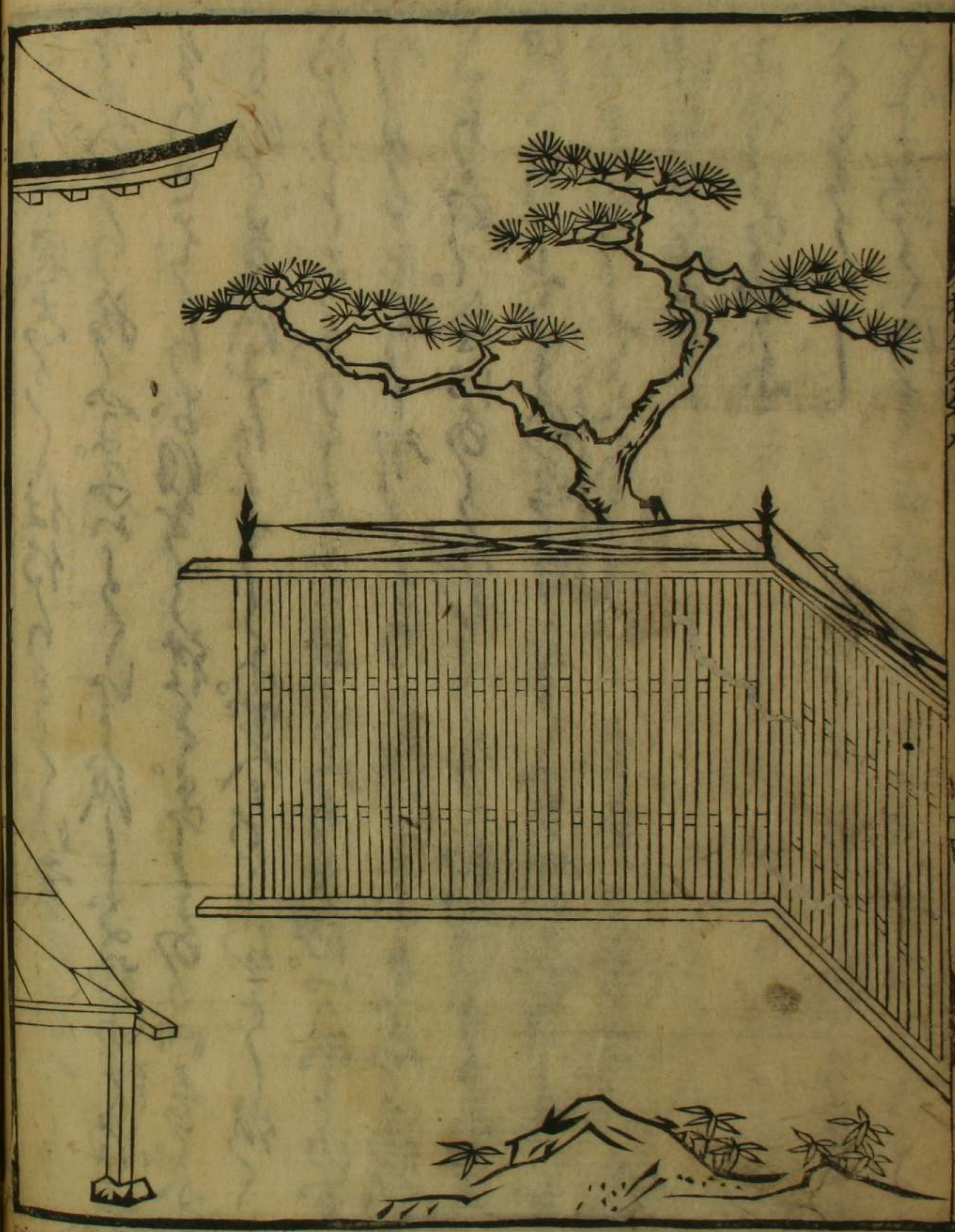
あんとらうあんとらうあんとらうあんとらう





撰集抄卷八

四十一



おしくやとく人あり

萩の波よ風とくは夕々夕々よは

寇の志こゝ露おちらと海一好る

とゆらふまおひ一夢さ海一くわり海一や流

その一りをいよりとはあり乃志この屋さ一と

まさ一は中わりなま

廿七 僧正遍昭あり

ひし遍昭僧正乃とある院へまのり終ひるよ

ころひるは和よさうしひ終ふ屋さ一馬乃門

侍めくおの勢ならせくるふ遍昭さしてさ伏見

のりけとく海くあんと云と中務のふとよ

清前乃野志のをとぬへ一とははは伏こゝ終終

海さしおひしひまのこゝれは遍昭く





ゆきんとおむりあり。あまのつらさゆよあひらぬ
よゆりこえりつるふ八幡大菩薩の降くむとけり
ゆくと祈念しゆりつるふ。いよのあまのつらさ
とる所なるまこととていふもつらさゆゆりあま
たりふりつるりし。このまこととていふもつらさ
とて利新つらり。朱雀門のなふあんとて
ゆりらん。とていふもつらさゆゆりあま

廿九 新嘗節正堂の若屋の秋れり

ひし一系院の法門平等院の僧正あまのつら
く聖徳とゆきまをいふり。つらさゆゆりあま
とていふもつらさゆゆりあま

合掌よむけり。つらさゆゆりあま
化佛と十のあまのつらさ。書巻とていふもつら
とらゆりつる。若屋の若屋のつらさは

新嘗節の若屋の秋れり

とていふもつらさゆゆりあま
とていふもつらさゆゆりあま
とていふもつらさゆゆりあま
とていふもつらさゆゆりあま

ぶ。い。の。ゆ。〜。さ。ち。う。つ。あ。る。見。の。や。う。と。は。な。り。
 とも。〜。な。ら。〜。不。を。羅。索。の。神。呪。と。り。て。給。
 ら。し。の。ま。る。〜。ま。〜。い。ま。〜。〜。〜。〜。〜。〜。
 決。り。給。ひ。ま。〜。ら。法。乃。ら。〜。〜。〜。〜。〜。〜。
 とも。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。
 一。衆。院。乃。法。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。
 かの。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。
 とも。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。
 とも。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。
 とも。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。
 とも。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。
 とも。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。
 とも。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。





宗徒のゆゑ一本とまのつちてくらの海をてん
 とは又珠攝よこのゆりぬきこもあまの徳あり
 一蓮花を足さうの大後かごとけ年祖あて
 今もこのつちあかしのつちの徳はこころのゆり
 くらとごころの夜の清代ぬ平尊院乃のつち
 ぬこめらにまゆりたりし蓮花とよまあけ大空
 雲のつちあまの徳つちのつちのつちのつちあり
 徳のつちあまのつちのつちのつちのつちあり
 と徳あつちのつちのつちのつちのつちのつちあり
 あくゆりけまて花舞臺乃う入よあまのつち
 ぞふちのつちのつちのつちのつちのつちあり
 乃あまのつちのつちのつちのつちのつちあり
 とはつちのつちのつちのつちのつちのつちあり

ろくろり

廿一紀四行を成りし

たのきき治成りし。紀列あられり。た
うと田といふことなり。小紀四行を成ると云。農を
里。こゝ終りたるの物語。こゝありありありあり。後
ろくろりといふことなり。ぬらうらうらうら。のこ
世のこゝありあり。こゝありあり。こゝありあり。こゝ
とん。終りし。終りし。終りし。終りし。終りし。終りし。
河乃親言とぬらうらうら。こゝありあり。こゝありあり。
いとありあり。いとありあり。いとありあり。いとありあり。
とこゝありあり。とこゝありあり。とこゝありあり。とこゝありあり。
室号ありあり。室号ありあり。室号ありあり。室号ありあり。
たのきき治成りし。紀列あられり。た

九月より。九月より。九月より。九月より。九月より。九月より。
くぬらうらうら。くぬらうらうら。くぬらうらうら。くぬらうらうら。
うらうらうら。うらうらうら。うらうらうら。うらうらうら。
親言とぬらうらうら。親言とぬらうらうら。親言とぬらうらうら。
人不成之世。人不成之世。人不成之世。人不成之世。人不成之世。
終りし。終りし。終りし。終りし。終りし。終りし。終りし。終りし。
とこゝありあり。とこゝありあり。とこゝありあり。とこゝありあり。
室号ありあり。室号ありあり。室号ありあり。室号ありあり。
たのきき治成りし。紀列あられり。た

